

# 令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

|       |           |
|-------|-----------|
| 制作団体名 | 企業組合 劇団仲間 |
| 公演団体名 | 劇団仲間      |

| 内容   |
|--|
| <p>1, 準備運動として簡単なゲームをします。</p> <p>例)アイコンタクトを用いたゲーム<br/>(輪になって決められたお題を目を見て隣に伝えていきます。慣れてきたら同時に2方向に回します)</p> <p>相手との信頼関係を育むゲーム<br/>(2人組になり手のひらを触れない程度に合わせて片方が相手を誘導し、誘導される側は、相手に動きを委ねます。誘導する側はまわりとぶつからないようにします。慣れてきたら手と顔で同じことをします)</p> <p>チームプレイが大切なゲーム<br/>(2人組になり向かい合って縦方向と横方向で手をぶつけないように手拍子を打ちます。さらに参加者全員で音が重なるように、耳元に集中し、思いを一つにします)</p> <p>想像することを楽しむゲーム<br/>(与えられたお題を瞬間的に判断して体を動かします)etc</p> <p>2, 劇中の参加シーンの練習をします。</p> |

| タイムスケジュール (標準)                               |
|--|
| 9:30~11:30 もしくは 13:30~15:30<br>学校と相談の上調整します。 |

| 派遣者数 |
|------|
| 6名   |

| 学校における事前指導                         |
|------------------------------------|
| 楽譜、CD等は事前に郵送しますが、事前指導の必要は特にはありません。 |

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

|       |           |
|-------|-----------|
| 制作団体名 | 企業組合 劇団仲間 |
| 公演団体名 | 劇団仲間      |

|  |
|--|
| <b>演目</b>  |
| 「小さい“つ”が消えた日」<br>原作：ステファノ・フォン・ロー(三修社刊)<br>脚本／演出 鈴木雄太<br>音楽：芳賀一之<br>上演時間 75分 休憩無し |

|                    |
|--------------------|
| <b>派遣者数</b>        |
| キャスト9名 スタッフ7名 計16名 |

|                      |            |             |             |             |       |
|----------------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------|
| <b>タイムスケジュール（標準）</b> |            |             |             |             |       |
| 到着                   | 仕込み/リハーサル  | 休憩          | 本番          | 撤去          | 退出    |
| 8:00                 | 8:00～12:30 | 12:30～13:30 | 13:30～14:45 | 14:45～16:45 | 17:00 |
| 前日仕込みの場合あり（要相談）      |            |             |             |             |       |

|                    |
|--------------------|
| <b>実施校への協力依頼人員</b> |
| 可能でしたら5～6名         |

## 演目解説

～いらぬ子なんていない！みんなそろって五十音！～

いろいろな文字たちが集まって暮らす五十音村では自慢話で盛り上がっていました。

そんな中、小さい“つ”は音にならない文字なんて必要ないとからかわれ、五十音村を飛び出してしまいます。

すると人間の世界ではおかしいことが起こりました。

弁護士が「訴えますか？訴えませんか？」と言おうとすると、

「歌えますか？歌えませんか？」となってしまう依頼人は怒り出します。

横綱も「はげよい、のこた」では力が入らずに負けてしまい日本語は大混乱！

はたして小さい“つ”は五十音村に戻ってくるのでしょうか？

この演目では自分が必要とされる存在であるという自己肯定感を感じて欲しいと思っています。

小さい“つ”は音で表すことは出来ませんが、文字と文字とを「つなぐ」役割を持っています。

小さい“つ”のいなくなった人間世界をユーモアに表現しながら、人にはそれぞれ個性があり、存在意義があるということ、そしてお互いを尊重しあうことで社会が成り立っていること感じてもらいたいと思っています。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

ワークショップの際に児童生徒と密な交流をもって舞台参加しやすいようにします。

舞台参加については照明や音響も交えて舞台稽古を行い、本番中の安全を確認します。

児童生徒の参加シーンでは劇団のスタッフがアテンドし、安全に誘導します。

## 児童生徒とのふれあい

公演後バックステージツアーを行い、実際に舞台の上に立ってもらって演技する側の気分を味わってもらいつつ児童・生徒との交流をします。

公演終了後はキャストが退場口に行き、子ども達との交流をはかります。



